

中学校社会科地理的分野における 思考・判断の指標モデル作成と活用方法の提案

湯浅町立湯浅中学校
教諭 福岡 史 記

【要旨】

本研究では、「思考力・判断力・表現力等」の育成につなげるために、思考・判断の活動を長期的視点で把握し、授業を設計できる仕組み作りを模索した。中学校学習指導要領（平成29年告示）等から、中学校社会科地理的分野の思考・判断に当たる項目を抽出し、L.W.Anderson（2001）らの改訂版タキソノミー等を参考にして、二次元マトリックス構造にまとめた指標モデルを作成した。

この指標モデルの活用方法とその有用性を所属校社会科教員の協力の下、授業改善等を通じて検証した結果、指標モデルは生徒の思考・判断の活動に加え、授業を設計する一助になることが示唆された。また、複数の単元にわたって長期的に活用できる可能性がうかがえた。

【キーワード】

中学校社会科、地理的分野、思考・判断の活動、タキソノミー、指標モデル

1 研究のねらい

（1）社会の変化と求められる教育についての一考察

経済・社会・生活等あらゆる場面の情報化が進み、それに伴う社会の変化は、人々の予測を超えて進展している。内閣府（2016）によると、それほど遠くない未来社会において、人々はサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を日常的に行き来することと想定されている。総務省（2016）の「平成28年度情報通信白書」には、このような時代に求められる資質・能力は、チャレンジ精神や主体性、企画発想力や創造性等だと示されている。つまり、これからの学校教育には児童・生徒が社会に出た時を見据えて、このような力を意識しながら教育活動を実践する使命があると考える。中でも発想力、創造性、問題解決、論理的思考等、筆者はいわゆる「考える」力に着目し、その力を育成する手立てを模索していきたいと考えた。

（2）学習指導要領改訂と、全国的な課題について

今回の学習指導要領の改訂で、育成すべき資質・能力が三つの柱に整理された。「思考力・判断力・表現力等」については、その育成に関わって「見方・考え方」「問題解決」「深い学び」等の記述が随所に見られるようになった。

このことから、「思考力・判断力・表現力等」の育成はこれまで以上に重要度を増していると考えられる。

平成元年告示学習指導要領において「思考力・判断力・表現力など」の育成が明記されて以来、その育成や育成方法に関する研究は数多く行われてきた。しかし、「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」

（2010、図1）によると、「思考力・判断力・表現力等」を育成するための活動について、内容や方法等が具体的に「イメージできない」、もしくは「どちらかと言えばイメージできない」と回答した教員は合わせて

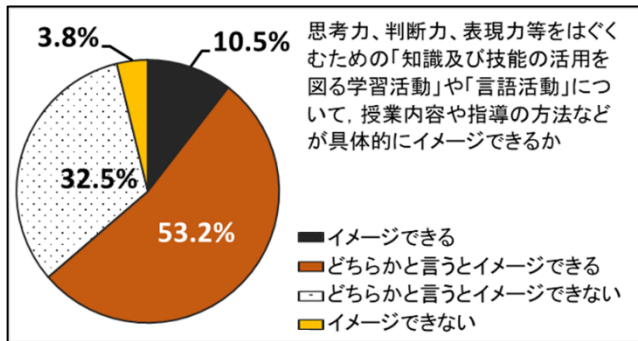


図1 教員の思考力・判断力・表現力等を育むための活動に対するイメージ（「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」（2010）を基に筆者作成）

の研究では、その解決の糸口を探るべく、事前に所属校の全校生徒に評価問題を実施し、正答率から項目を階層的に仮定した。そして、指標を「モデル」(表2, 3)として提案し、授業を通して階層性の是非を検討することとした。

指標モデルの構成は、縦軸に思考スキル(判断スキル)、横軸に主題を展開するための材料を配置した。この主題を展開するための材料を、思考の題材(判断の題材)と定義する。これらの項目は、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編等から抽出した。この指標モデルを、次に示す3点のように用いる。

①思考・判断の活動、授業の目標を設計する援助として

各活動は何を考え、何が分かるようにするかが明確になる。また、同じ方法で授業目標や、目標に至るための学習展開を具体的に設計しやすくなる。さらに、生徒の反応に合わせて指標モデルを活用しながら発問を再設計することで、生徒はより課題に迫りやすくなる。

②単元構想、さらなる長期的な設計の援助として

改訂版タキソノミーの構造を基に、1つの単元、複数の単元、さらには地理的分野の2年間を見通した、思考・判断の把握と学習展開の設計に役立つよう指標モデルを作成した。

③思考・判断の活動の難易度を把握する援助として

提案授業での検証を要するが、有意な結果となれば、提案の価値があると考えた。

3 所属校における授業研究

所属校の社会科教員4名には、指標モデルを基に学習活動や発問を設計の上、授業を行ってもらった。筆者も、第2学年114名に「日本の諸地域ー中部地方」の授業を図2のように行った。また、中部地方の単元のうち3時間目の授業展開と、思考の指標モデル及び判断の指標モデルを図3に示す。

表3 筆者が作成した判断の指標モデル

判断 スキル	評価する									
	構成する 構造化する									
	一般化する 抽象化する									
	総合する 統合する									
	分類する									
		変容	関連	特徴 特色	理由 要因	意味 意義	影響	地域 区分	結果 在り方	手法 条件
判断の題材										

単元目標 中部地方3地域の産業の特徴について、具体例を挙げながら調べた内容を話し合う活動や、まとめる活動を通して、環境と関連付けて考察し、その過程や結果を構造的に表現する。										
時	各時間の主となる学習活動									
1	地図を読み取る活動を通して、中部地方の地形や都市を理解できるようにする。									
2	東海地方の産業について、考えを話し合うことを通して、交通環境の意義を分析し、一般化できるようにする。									
3	中央高地の産業について、論理的に説明する活動を通して、時代環境の影響を分析し、一般化できるようにする。									
4	北陸地方の産業について、考えを話し合うことを通して、自然環境の影響を分析し、一般化できるようにする。									
5	3地方の産業と環境について、文章にまとめる活動を通して、関連を構造化し、一般化できるようにする。									
思考 スキル	構想する 見通す									
	具体化する									
	分解する 分析する 焦点化する									
	予想する 予測する 推理する									
	創造する									
	応用する 活用する									
	比較する									
			変容	関連	特徴 特色	理由 要因	意味 意義	影響	地域 区分	結果 在り方
思考の題材										
判断 スキル	評価する									
	構成する 構造化する									
	一般化する 抽象化する									
	総合する 統合する									
	分類する									
			変容	関連	特徴 特色	理由 要因	意味 意義	影響	地域 区分	結果 在り方
判断の題材										

図2 本単元の計画と、思考の指標モデル及び判断の指標モデル

(2) 生徒のアンケート、インタビュー、生徒観察から

ア 成果

第2学年では、思考・判断の活動を行った、2時間目から5時間目にかけての4回の授業毎に、アンケートを行った。その結果、2時間目から4時間目の授業にかけて、考えることが楽しかったと回答する生徒の割合が増加した(図6)。また、2時間目と5時間目の授業を比べると、理解度の差は大きいにもかかわらず、考えることが楽しかったという回答の割合は同程度であった。このことから、考える楽しさは、理解度と必ずしも一致しないことがうかがえる。また、順に答えに近づ

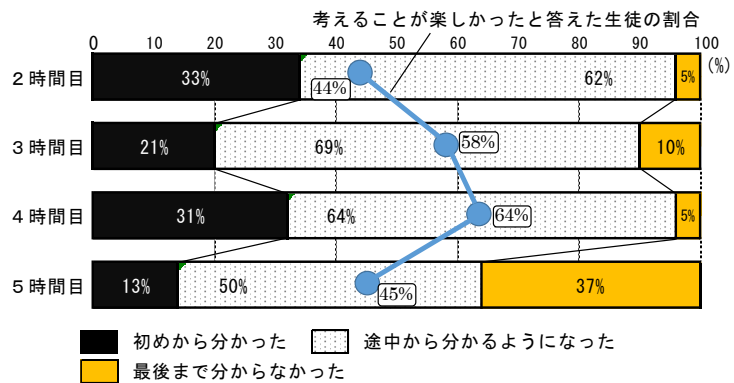


図6 課題が分かった段階（棒グラフ）と、考えることが楽しかったか（折れ線グラフ）についての生徒アンケート結果

いていく感覚を得たり、考えたことと他の事象との関連に気付いたり、活動が行き詰まった際に、活動や発問が再設計されたことが、ヒントになったりしたという趣旨の意見が見て取れた。

授業を参観した教員は、発問の意図が分かり易くなり、生徒たちの活動が活性化し、記述の分量が増え内容にも深まりが出たこと、特に社会科を得意とする生徒がこれまで以上に積極的に発表したり、対話をしたり、ノートに記述したりする等の姿が見て取れたことを挙げた。

イ 課題

授業や活動が最後まで分からなかったと回答する生徒も毎授業存在した。協力教員によると、社会科が苦手な生徒を中心にこの傾向が見られた。この理由を生徒に尋ねてみると、資料が十分に読み取れなかったり、これまで行ってきた学習の内容が定着していなかったりと、思考・判断の活動までにつまずいていることがうかがえた。

また、易しいと想定した活動で半数以上の生徒が答えられなかったり、事前に行った評価問題の正答率を大きく下回る結果となる活動があったりと、当初想定した難易度と、生徒の主観や成果物が一致しないことがあった。しかし、所属校の教員とこの排列の是非について検討することは、教員が思考・判断の活動を把握する機会になると感じた。

5 考察

成果から、指標モデルは、思考・判断の活動を把握し、学習展開を設計する助けになったことがうかがえるとともに、よく行う思考・判断の活動を認識できる等、単元全体の設計に役立つといえる。さらに長期的に活用できる可能性も高まった。特に、経験年数の浅い教員の意見から、指標モデルは教員の思考・判断の活動について経験や知識を補う役割を果たすと考えられる。この結果、教員の発問が明確になり、生徒は活動しやすさを感じたようであった。加えて、順に答えに近づいていく感覚や他の事象との関連に徐々に気づき、特に社会科が得意な生徒を中心に思考・判断の活動への意欲が増した。本研究は地理的分野を対象に行ったが、他分野でも同様の指標モデルが役立つ可能性がうかがえた。

一方で、項目の排列には異論も多く、活動の難易度とは別の切り口で排列する必要があると分かった。また、活動に必要な情報をいかに捉えさせるか等、社会科が苦手な生徒に対する支援を併せて考える必要性を感じた。

今回の研究では、思考・判断の活動を把握し、適切に学習展開の設計ができる仕組み作りにおいては一定の成果があった。但し、この取組が「思考力・判断力・表現力等」の育成につながるかを確かめるには、さらに研究期間やサンプル数が必要である。しかしながら、教員や生徒が指標や活動の意義を認識していることから、その可能性を示すことができたと考えている。今後は、今回課題となった点を解決できる指標の作成を、さらにめざしていきたい。

<注 釈>

注1 「思考力・判断力・表現力等」を育むための学習活動を、それぞれ思考・判断・表現等の活動と定義する。

注2 Marzano の新しいタキノミーのように、必ずしも難易度を基に階層性を意図していないものがある。

注3 認知過程とは、知覚、記憶、推論等、知的活動の総称であり、「思考力・判断力」等はこれに含まれる。

注4 L.W.Anderson らは中期的（数週間から数ヶ月）という言葉を用いているが、これまでの日本で行われてきた各研究より長期的であるという意図を含んで長期的と記す。

<参考文献>

- ・石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂（2011）
- ・石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂 増補版（2015）
- ・財団法人日本システム開発研究所『学習指導と学習評価に対する意識調査報告書（平成21年度文部科学省委託調査報告書）』（2010）
- ・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社（2017）
- ・鈴木秀幸『スタンダード準拠評価－「思考力・判断力」の発達に基づく評価基準』図書文化社（2013）
- ・総務省「平成28年版情報通信白書」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h28.html>
- ・泰山裕、小島亜華里「思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット」財団法人パナソニック教育財団（2012）
http://www.pef.or.jp/05_oyakudachi/contents/pdf/02_4_taizan.pdf
- ・泰山裕「思考力育成を目指した授業設計のための思考スキルの体系化と評価」（2014）
https://kansai-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=209&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- ・館潤二『第1 目標』のポイントと解説』原田智仁編『新学習指導要領の展開』明治図書（2017）
- ・中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）』（2016）
- ・中央教育審議会教育課程部会「教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ（第1回） 議事録」（2017）
http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/siryo/1402920.htm
- ・中央教育審議会教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するWG（第1回）「配付資料4-2」（2017）
http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/10/20/1397756_4.pdf
- ・内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
- ・原田智仁『中学校新学習指導要領 社会科の授業づくり』明治図書（2018）
- ・文部省（現：文部科学省）『中学校学習指導要領（平成元年告示）』（1988）第1章 総則
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/1322457.htm
- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房（2018）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社（2018）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房（2018）
- ・Lorin. W. Anderson& David R. Krathwohl 編著『A Taxonomy for learning, Teaching, and Assessing:A Revision of Bloom' s』PEASON（2001）
- ・Robert J.Marzano & John S.Kendall（黒上晴夫・泰山裕訳）『教育目標をデザインする－授業設計のための新しい分類体系－』北大路書房（2013）（R. J. Marzano & J. S. Kendall 『The New Taxonomy of Educational Objectives, 2nd Edition』Corwin Press（2007））